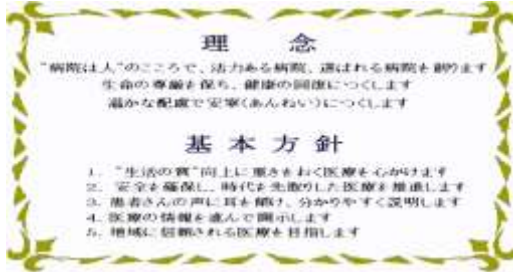
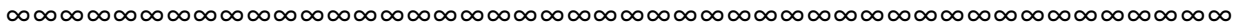


令和 2 年 3 月 1 日 発行  
KKR 札幌医療センター  
〒062-0931  
札幌市豊平区平岸 1 条 6 丁目 3-40  
電話 (011) 822-1811  
<http://www.kkr-smc.com>

(2020-3 号)



<b>3月(弥生)のこよみ</b>		
3月 3日 (火)	ひな祭り	
3月 14日 (土)	ホワイトデー	
3月 20日 (金)	春分の日	



## <がんと遺伝子検査>

消化器内科医長 小林 良充

2 人に 1 人ががんになる現在、がんは『国民病』と揶揄されています。決して人ごとではなく、ご自分が、あるいは近い人が抗がん剤治療をしているかたも少なくないと思います。

さて、これまでがんは発生母地(最初に発生した臓器)と組織型で分類されてきましたが、医学の発達に伴い、がんの遺伝子情報を調べることができるようになりました。まだまだ全てを解明できる段階ではありませんが、『がん』と一括りにせず、患者さん個々にあった治療(『オーダーメイド治療』『precision medicine』)を考えるのに、この遺伝子情報は不可欠です。遺伝子検査、と聞くと何かぞろぞろしいものを想像されるかもしれませんが、多くの場合、検査に必要な検体(がん細胞)は診断に至る課程で得られており、改めて苦痛を伴う検査は不要です。

遺伝子検査の一例として、MSI(マイクロサテライト不安定性)検査は、昨今話題となった免疫チェックポイント阻害薬の効果予測や使用可否の判定に用いられます。

注意点として、MSI 検査は、ご自身とその家系内に様々な悪性腫瘍が発生するリンチ症候群の診断にも用いられるため、結果にその情報が付随することがあります。つまり、自分以外の血縁の方にも影響が及ぶことがある、ということです。血縁の方に発がんリスクを伝えられる、利点と考えることもできます。一方で、就職、結婚、出産など人生の転機を控えているご自身の人生に影響が及ぶのでは、と危惧されることもあるでしょう。もし検査結果が血縁の方に影響を及ぼすものであった場合、北海道大学病院、あるいは札幌医科大学病院へご紹介し、専門家によるカウンセリングを受けることができます。

もちろん、検査を受けなくても治療は可能ですが、主治医が『がんの遺伝子検査』を提案するときは、『あなたに合ったがん治療』を考えているのです。前向きにご検討いただき、ご不安なことがあれば遠慮せずにご主治医にご相談ください。



当院は<<敷地内全面禁煙>>となっております

## 患者サポートセンター 入退院支援室のご紹介

患者サポートセンター 看護師 菅原 静穂

日頃よりKKR札幌医療センターをご利用いただきありがとうございます。

今回は、「入退院支援室」についてご紹介させていただきます。みなさまは、1階ローション横にある緑色の看板「患者サポートセンター」をご存知でしょうか。

こちらでは、主に入退院に関すること全般と診断書や各種書類の手続きを行っております。

入退院支援室は、患者サポートセンターの一角にあり、入院を予定している方が、入院から退院後までをイメージし安心して入院生活を送れるよう支援するところです。3~4名の常駐看護師と病棟看護師が、みなさまの入院生活についてお話をさせていただきます。

具体的には、

- ① 入院説明：入院日時のご案内、お部屋の希望をうかがいます。  
入院の目的やどんな検査・治療を行うのか、医師からどのように聞いているか確認させていただきます。患者さんと医師や看護師が共通の認識を持って安心して入院生活を送れるよう支援します。不安・疑問等あればお伝えください。
- ② 今飲んでいるお薬の確認：お薬手帳を確認させていただきます。他院からの処方も含め入院時に指定日数分ご持参ください。治療によっては中止するお薬があります。その確認もさせていただきます。
- ③ 入院時必要な情報の確認：安全に入院生活を送るために、今までのご病気や日常生活について、緊急時の連絡先等について確認させていただきます。「入院されるみなさまへ」という用紙の記載をお願いしています。その方に合った入院中の履物や持参していただく物についてご案内させていただきます。
- ④ 退院後の療養先について：退院後も適切な環境で安心して療養できるように、退院支援担当者が入院直後から相談にのっています。

当院を利用している患者さんをご家族が安心して療養できるよう外来・病棟・入退院支援室で連携をとりスタッフ全員で対応しています。

何か相談したいこと、困っていることがありましたらお気軽に入退院支援室スタッフに声をおかけください。